

上毛電鉄 各種行事

大胡電庫でのイベント

電車を身近な乗り物として感じてもらえるように、新春・春・秋の年3回イベントを実施しています。



イベント内企画

犬釘打ち体験

枕木にレールを固定するための釘を打つ体験。釘は15cmほどある大きな釘を使用し、イベント来場者に人気の企画です。



イベント内企画

電車との綱引き

20トン以上もある電車を綱引き。参加者が力を合わせて綱を引くと、電車がゆっくり動き出し、歓声が上がります。



上電うごくギャラリー 児童絵画展

小学生以下を対象に募集した絵画作品を電車内に展示。郷土文化の向上や、鉄道利用のきっかけづくりのため開催しています。



五角(合格)堂設置

毎年受験シーズンに設置される正五角形のお堂。進路に向かって脱離することがないように、受験生を応援します。



電車運転が体験できます!



実際の運行に使用している700形や、電気機関車のデキ3021で、運転士の体験ができます。全行程を終えた参加者には、修了証が授与されるため、体験を形にして残すことができます。リピーター続出です。

※詳細については、上電本社に問い合わせ又はHPで確認

ハイキングを楽しもう!



上毛電鉄沿線の風景等を満喫するハイキングや、近県各地の旅を楽しむバスハイキングを実施しています。健康増進にも効果的なハイキングに、ぜひご参加ください。

※詳細については、上電本社に問い合わせ又はHPで確認

ロケ地を訪ねてみませんか!

開業(昭和3年)以来の施設が数多く残っており、映画撮影や、沿線の史跡・自然を取り上げる番組など、様々なメディアに取り上げられています。

特に大胡駅周辺は映画撮影で利用されることの多い、人気スポットとなっております。

その他詳しい内容は→

上電

検索

発行元 上電沿線市連絡協議会

(群馬県・前橋市・桐生市・みどり市・上毛電気鉄道株式会社)

昭和3年に営業開始し、 平成30年で90周年を迎えた 上毛電鉄

「上電」の愛称で親しまれ、沿線住民の重要な足として役割を果たしてきました。

地域の発展を支えてきた上電では、歴史的価値を有する駅舎等の施設や、毎年行われている各種イベントにも、ほかにはない特色があります。

ぜひ足を運び、
上電の魅力に
触れてみてください。

西 桐 生

丸 山 下

富 士 山 下

天 王 宿

桐 生 球 場 前

赤 城

東 新 川

新 川

新 里

膳

粕 川

新 屋

北 原

樋 越

大 胡

江 木

心臓血管センター

赤 坂

上 泉

片 貝

三 俣

城 東

中 央 前 橋

上毛電鉄

～since 1928～



お問い合わせ先

上毛電鉄本社 TEL.027-231-3597

中央前橋駅 TEL.027-231-3547

大胡駅 TEL.027-283-2002

赤城駅 TEL.0277-72-1138

西桐生駅 TEL.0277-23-2200

沿革

上毛電鉄は、養蚕をはじめとした産業の振興を目的に鉄道路線の建設が計画され、昭和3年に現在の路線に相当する中央前橋ー西桐生間が開通しました。
戦後急速に進展したモータリゼーションの影響を受け、利用者減少が続いていますが、依然として地域住民の通勤通学を支える重要な交通機関であり続けています。

大正13年6月 電気鉄道敷設免許取得
(前橋ー桐生間、大胡ー伊勢崎ー本庄間)

大正15年5月 会社創立

昭和3年11月 営業開始
(中央前橋ー西桐生 25.4km)

昭和9年7月 本社を東京から前橋市へ移す

昭和9年11月 大胡ー伊勢崎ー本庄免許失効

昭和20年8月 空襲により中央前橋・本社焼失

昭和22年9月 カスリーン台風による甚大な被害を受ける
→同年11月に営業再開

昭和55年10月 西武鉄道から中古車両16両購入

平成元年8月 東武鉄道から中古車両18両購入

平成10～12年 京王電鉄から中古車両16両購入
→現在使用する700形車両

平成15年4月 サイクルトレインの運用開始

平成17年4月 レンタサイクルを4駅に設置
(中央前橋・大胡・赤城・西桐生)

平成17年～21年 西桐生駅駅舎・西桐生駅プラットホーム上屋等、計12件が登録有形文化財に認定

平成27年4月 車両広告ラッピング電車運行開始

平成30年11月 公益社団法人土木学会選奨土木遺産に、
上毛電気鉄道関連施設群が新たに認定

デハ101

開業当初(昭和3年)に製造された車両。イベント時や貸切列車として活躍しています。

日本最古といわれる電車



車内も開業時の面影を残す



運転席が右側にあるのも特徴

貸切イベント



貸切運転は要予約
大胡駅～西桐生間
1往復 10万円

結婚式

お酒列車

※予約は上毛電鉄本社まで

国登録有形文化財

上毛電鉄には、開業時に建設された施設が複数存在し、国の登録有形文化財となっています。平成30年時点で12の施設が登録されており、今もなお上毛電鉄の営業を支えています。

昭和3年建築の施設



大胡駅舎



西桐生駅舎



大胡変電所



大胡電車庫

大胡電車庫

かつて部品を製作していた工作室や現役の車両などを、上電社員による解説つきで見学することができます。



工作室
工作室内のほとんどの設備が開業時に導入され、現役の機械もあります。

コークスを燃料として、鉄の部品を真っ赤になるまで熱して修理をする場所です。



鍛冶場



マスコンと制御装置

車庫には7台のモーターがあり、1台は現在も稼働しています(デハ101に使用)。



モーター

上毛電鉄 車両



700形車両

平成10～12年に京王電鉄から中古で譲りうけたため、製造50年を超えていますが、丁寧なメンテナンスにより、現在も大切に使われています。



デハ104

鮮やかな黄色が特徴の車両。平成9年3月に廃車となり、現在は大胡電車庫で保管されています。



デキ3021

昭和4年に製造された電気機関車。運転体験の車両としても使われています。

上毛電気鉄道関連施設群

選奨土木遺産

営業90周年を迎えた節目の年に、上毛電鉄の施設群(粕川橋梁・渡良瀬川橋梁・大胡電車庫・荒砥川橋梁・西桐生駅駅舎)が、(公社)土木学会選奨土木遺産に新たに認定されました。昭和22年のカスリーン台風の被害から早期に復旧し、地域の復興に寄与したことが選奨理由として挙げられています。



粕川橋梁



渡良瀬川橋梁



荒砥川橋梁

各橋梁は、補修や造り替えを繰り返しながら、地域交通を支えてきました。